東京都立品川特別支援学校　学校だより　　令和７年５月１日発行

スモールステップ

５月号

新規採用教員の応援団に

副校長　藤上　実紀

今年度本校は、７名の新規採用教員を迎えました。教師としてのスタートを切り、日々真摯に子供たちと向かい合おうとする姿に頼もしさを感じています。

さて、今年度から東京都の新しい試みとして、先輩教員がメンターとなり新規採用教員を支援するしくみが導入されました。メンターには指導教員とは別に、２年目以降の比較的若手の教員が選任されています。メンターの役割は、日常的な会話や声掛けを通して、新規採用教員が話しやすい関係を築き、悩みを聴いたり、アドバイスをしたりして、教員としての精神的自立を支援することです。指導教員が授業や指導の仕方等、教員としての基礎を育成するのに対し、メンターは身近な相談相手として寄り添うことが求められています。このように、学校全体で新規採用教員を育成してまいります。保護者の皆様にも、厳しくも温かい目で応援していただきますよう、どうぞよろしくお願いいたします。

26名が仲間入り

小学部１年生　学年主任　小川真理

４月８日（火）在校生に迎えられ26名の小学部１年生が、本校に入学しました。緊張と不安があったかと思いますが、出席した全員が体育館に入り式に参加することができました。

次の日からは、いよいよ保護者の方と離れ一人での学校生活がスタートしました。全てのことが初めてで表情が硬い子が多くいましたが、少しずつ慣れてきており、今ではたくさんの笑顔が見られるようになりました。

生活単元学習でクラスごとに校内探検を行い、図書室、体育館など楽しそうな場所を見付けていました。給食後にそこで過ごすことを楽しみに、着替えや荷物整理などやるべきことを頑張っています。学年集会ではクラス紹介と１年間の予定の確認を行い、これから一緒に過ごす友達や教員と改めて顔を見合わせました。「運動会（体育発表会）があるの」「プール大きい」という声もあり、これからの生活を楽しみにしている小学部１年生です。

中学生になり

中学部１年生　学年主任　谷口　直人

満開の桜にも祝福されるように、中学部26名が本校に入学しました。新しい制服に袖を通して、緊張と不安に包まれながらも新しい学校生活のスタートを切ることができました。校舎や教室のフロアが昨年度と同じではありますが、中学生になったことで不安や戸惑いがあったかもしれません。それでも、見慣れた友達を見付けると笑顔が溢れ、楽しい毎日を送ることができています。

中学生は、心身共に子供から大人になるための変化の時期で、思春期に当たります。自我が発達し、自分の内面に目を向ける時期であり、友達や周りの人にも関心が強くなって、集団的な活動がより意味をもつ時期でもあります。また、キャリア教育の観点から、「役割を果たすこと」「社会的な活動」などに意欲を示し、自立心と責任感が育まれる時期でもあります。自立に向かう成長の一方で戸惑いや混乱が現れることもありますが、思春期を上手に乗り越えながら、楽しい毎日になるよう支援していきます。